

# モビリティ、ヘルスケアなど 事業の拡大でV字回復目指す

三井化学社長 淡輪 敏氏

本誌 二〇一三年度（二〇一三年四月～二〇一四年三月）の純損益は大幅な損失でしたが。

淡輪 二〇一三年度は二〇一一年度から三カ年の11中期経営計画の最終年度として、高機能製品と高付加価値ポリマーの重点・二分野の拡大と大型市況製品や石化事業の再構築に注力しました。重点・二分野ではメガネレンズモノマー、歯科材料、不織布、農薬などの高機能製品や自動車向けのポリプロピレンコンパウンド、エラストマー、エポリユール（食品包材）などの高付加価値ポリマーの機能製品事業が順調に拡大したものの、フェノール、PTA、ウレタン事業など大型市況製品や石化事業についてはアジア需給の悪化など厳しい環境のなか、抜本的構造改革が不可欠と判断、市原BPAやシンガポールBPA（一基）などのプラント停止や工場の閉鎖を含めた事業再構築を発表しました。このため、売上高は前期比一五九八億円増の一兆五六六〇億円、営業利益は同二〇六億円増の二四九億円と伸びましたが、リストラによる特別損失三三〇億円を計上したことから当期純損益は二五一億円の損失となりました。

二〇一六年度には営業利益六〇〇億円、純利益三〇〇億円達成

本誌 二〇一四年度から14中期経営計画がスタートしましたが。

淡輪 新たな顧客価値の創造をテーマとする14中期経営計画では事業活動を通じて社会貢献を目指す企業グループ理念に基づき、二〇二〇年近傍を見据えた当社グループの将来像を策定しました。具体的には、当社グループが貢献すべき社会課題として、環境と調和した共生社会の実現、健康・安心な長寿社会の実現、地域と調和した産業基盤の実現を掲げ、経済軸と環境軸・社会軸が結びついた社会課題解決への取り組みにより、社会と当社グループの持続的成長・発展を目指していく姿勢を改めて明確にしています。

本誌 同中期経営計画では二〇一六年度に連結売上高一兆七五〇億円、営業利益六〇〇億円、純利益三〇〇億円を目指しています。

淡輪 14中期経営計画では事業領域をPPコンパウンドやコーティング・機能材、機能樹脂など自動車材料を中心としたモビリティ事業、メガネレンズ材料や歯科材料、不織布

などのヘルスケア事業、エポリユールやフィルム・シート、農薬などのフード&パッケージング事業、フェノールやPTA・PET、ウレタン原料や基礎化学品などの基礎素材事業の四事業領域に分け、モビリティ事業とヘルスケア事業、フード&パッケージング事業の三事業を成長のターゲット領域としてV字回復を目指しており、金属と樹脂の一体型部材や眼鏡用の調光レンズ材料事業、太陽光発電診断・コンサルティング事業などの新事業・新製品で売上高一〇〇〇億円を計画しています。また、二〇一六年度の営業利益六〇〇億円の内訳は五〇%がモビリティ事業、二五%がヘルスケア事業、一五%がフード&パッケージング事業、一〇%が基礎素材事業の予定です。二〇一三年度も重点・二分野で約五〇〇億円の営業利益を計上していますので、基礎素材事業で確実に黒字転換を図れば六〇〇億円達成は難しくないと思います。

二〇一四年度通期の営業利益を四〇〇億円に上方修正

本誌 二〇一四年度（二〇一五年三月期）第2四半期の業績は順調に

推移していますね。

**淡輪** 当社は、この三カ年で約六〇〇億円の特損を計上してきましたが、二〇一四年度からは平常ベースに戻ってきており、二〇一四年度第2四半期は売上高が前年同期比六％増の七七六〇億円、営業利益が同九％増の一八六億円、経常利益が同八一％増の一四四億円、純利益が同六一六％増の七四億円を計上でき、二〇一四年度通期の営業利益を四〇〇億円、純利益を一四〇億円に上方修正しました。このため、二〇一六年度の営業利益六〇〇億円、純利益三〇〇億円達成はかなり現実味が帯

びてきました。さらに、当社では二〇二〇年に営業利益一〇〇〇億円、純利益五〇〇〇億円の実現を計画していますが、これも実現の可能性が高まっています。ただ、世界経済や化学業界に何が起きるかは誰も予想できませんので、重点分野であるヘルスケアなどの高機能製品群と当社の強みである触媒技術を活かした高付加価値ポリマー群に経営資源を集中投入するとともに、大型市況製品などの抜本的な構造改革を着実に進めていきます。赤字事業のリストラを進める中でも会社全体の成長のスピードを落とさないようにしたいと思

っています。

**本誌** 財務体質改善を図るため、11中期経営計画での設備投資額二二〇〇億円を14中期経営計画では一四〇〇億円に圧縮しましたが、

**淡輪** 14中期経営計画の設備投資額一四〇〇億円のうち、九〇〇億円は11中期経営計画と同じく基盤の維持にあてられ、残りの五〇〇億円が成長投資になります。モビリティ、ヘルスケア、フード&パッケージ事業の成長事業領域に優先配分し、必要とあればM&Aも行います。  
**本誌** 事業のグローバル化も進んでいますね。

**淡輪** 既に二〇一三年度の海外売上高は六九八一億円と全体の四五％にのぼっています。内訳はアジア四三％、中国三三％、米国二二％、欧州九％などで、二〇一三年度にはド

イツのヘルウス社の歯科材料事業買収、アジアでのエラストマーやエボリユーといった高機能ポリマープラント建設など海外展開が着々と進んでいます。また、二〇一四年には三井化学アメリカの一〇〇％子会社として革新的なヘルスケア・ソリューションを提供するための新会社、Whole You, Inc.(ホールユー社)を米国カリフォルニア州に設立しました。当社では石油化学に重きを置いた会社というイメージを変革するとともに景気に左右され難いポトフオリオへの変革と真のグローバル化を目指しています。今後はスピード感を持って成長分野で勝ち残る一方、フェノールなど汎用化学分野では地産地消をキーワードに生き残りを目指していきます。苦しい時代が長いとどうしても社内が暗くなるし、自信を失ってしまいますので、二〇一四年度には予想以上の業績アップを果たし、社員が自信を取り戻せる会社にならないといけないと思っています。



淡輪敏(たんのわ・つとむ)氏

1951年10月生まれ。福岡県柳川市出身。1976年・早稲田大学商学部卒業。同年・三井東圧化学(現三井化学)入社。2005年・基礎化学品事業グループ工業薬品事業部長。2007年・執行役員人事・労制部長、2010年・常務執行役員基礎化学品事業本部長。2012年・取締役常務執行役員。2013年・取締役専務執行役員。2014年4月・代表取締役社長執行役員に就任。